



02

総論

夏の両ダンゴ釣り

03

両ダンゴのチョーチン釣り

08

両ダンゴの浅タナ釣り

12

両ダンゴの底釣り

総論

## 夏の両ダンゴ釣り

平野部の釣り場から始まって、ダム湖や山上湖へと移っていった乗っこみも一段落し、夏を迎えるとへら鮒釣りは本格的な両ダンゴのシーズンに突入する。

水深がたっぷりある湖や管理釣り場での、豪快なチョーチン釣り。管理釣り場や野池など釣果を伸ばす浅タナ釣り。さらに、根強いファンが多く、一年中楽しめる底釣り。どの釣り方にせよ、活性を高めた夏のへら鮒はダンゴエサによく反応し、躍動的にウキを動かしてくれる。ダンゴの釣りの面白さを楽しむとともに、ダンゴのテクニクを高められる絶好のシーズンといえるだろう。

ふたつのエサのバラケ性によってへら鮒を寄せながら、

ハリに残っているエサを吸い込ませるのが、ダンゴの釣りだ。管理釣り場での短時間の釣りなら、セット釣りが有利になりやすいが、一日通しての釣りなら、ダンゴの釣りは釣果がぐんと伸びていく。「寄せながら釣る」というダンゴの特性といえるだろう。

また、エサのバラケ性、ハリ持ち、やわらかさ、重さなど、その日の釣況にエサを合わせていくのも、ダンゴ釣りの大きな楽しみだ。いわゆる「エサ合わせ」の技術が、釣りを大きく左右する。エサが合った瞬間の、世界が変わったかのようなアタリとヒット率を、ぜひ経験してみよう。

夏のダンゴ釣りでは、エサのハリ持ちによく注意したい。夏はへら鮒が活動的になり、



エサの周りにたくさん寄ってくる。釣り人が想像している以上に、水中のエサはたたかれるので、エサがハリに残りにくくなる。チョーチンでも浅タナでも、トップ1〜2目盛程度のなじみ幅では危険だ。エサをしつかり持たせ、ウキをよくなじませることを基本と覚えてほしい。